



ミュージアムと 地域住民のつなぎ方を考える

カナダの医師会は2018年11月から、患者の健康回復を促進する治療の一環として、博物館への訪問を「処方箋に書く」取り組みを始めています。医師会とモントリオール美術館が連携し、心身にさまざまな健康問題を抱える患者とその家族などが、無料で博物館に入館し、芸術文化の健康効果を楽しむことができました。

また、英国のロンドン大学の研究グループは、展覧会やコンサートなどの文化芸術を鑑賞する機会が多い人の方が、全くない人に比べ、死亡率が有意に低いと報告(2019年)、さらに、ウェストミンスター大学のAngela Clow(2006年)やワシントン大学のTer-Kazarian(2019年)は、美術作品を昼休みの短時間に見るだけでも、ストレスの軽減になると報告しました。

現在の日本は、団塊世代が75歳以上になる「2025年問題」に続き、高齢者人口がピークを迎える「2042年問題」や約7人に1人の若者がメンタルヘルス不全状態にあるという、大きな健康課題を抱えていると言えます。

地域にある博物館に、できることはないのか？

そこで、本事業では、カナダをはじめ、米国、英国、台湾などの事例調査をもとに、地域住民に向けた「博物館浴*」プログラム開発、そして地域住民と博物館などをつなぐリンクワーカー人材育成を目指すことで、社会資源の新たな活用方策＝社会的処方箋となる「博物館健康ステーション」運用方策を提案したいと考えます。

今回の連続講座は、「オンライン語り場」と名づけています。

毎週金曜日の午後からの90分。地域のミュージアムを活用しながら、地域住民と博物館をつなぐ実践を粘り強く進めている、学芸員、医療・福祉従事者からの話題提供を受け、その後は参加者と共に意見交換を行う「語り場」とします。

こうした「語り場」を通じて、地域の社会教育施設、学校、医療・福祉機関が協働した「誰もが全国5,700ある博物館のリンクワーカー」という、新たな地域人材育成の方策やプログラム開発を考える機会を共に作りましょう。

* 博物館浴：博物館見学を通して、博物館の持つ癒し効果を人々の健康増進・疾病予防に活用する活動

「オンライン語り場」日程一覧

回数	開催日	開催時間	タイトル	講師
1	9月20日(金)	13:30～15:00 話題提供 30分、 その後は「語り場」	さわる、歩く、なりきる ～視覚障がい者も楽しめるプログラム	西島 亜木子(九州国立博物館)
2	9月27日(金)		「Well-being」に資する天文解説	宮本 孝志(南阿蘇ルナ天文台)
3	10月4日(金)		来館者に寄り添う、鑑賞の「処方箋」	前野 耕一(鹿児島市立美術館)
4	10月11日(金)		学芸員の学びから考える介護施設のレクリエーション	手嶋 翔一(介護老人保健施設 松寿苑)
5	10月18日(金)		博物館と地域が手をつないだ 「小さな子どものための」活動	秀瀬 みのり (高槻市立自然博物館〈あくあびあ芥川〉)
6	10月25日(金)		大学博物館は、学生の「保健室」	梅村 綾子 (東海国立大学機構 名古屋大学博物館)

開催方法	Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング	定員	>>> 各回30名	受講料	>>> 無料
参加対象	博物館・図書館・公民館/医療・福祉従事者、大学教員、学芸員有資格者で「リンクワーカー」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等				

主催：「児童生徒の不登校」「若者のひきこもり」課題解決に向けた社会資源を活用した「メンタルヘルス」支援プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会
(代表＜九州産業大学美術館＞、九州大学総合研究博物館、九州国立博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、直方谷尾美術館、下関市立考古博物館)

オンライン語り場

各講座開始時間 13:30～15:00
(受付) 13:15～



第1回 9月20日(金)

さわる、歩く、なりきる ～視覚障がい者も楽しめるプログラム～



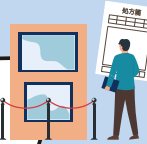
西島 亜木子
Akiko NISHIJIMA

福岡県/九州国立博物館企画課特別展室、主任研究員

2019年度から視覚障がい者向けの様々なプログラムを行ってきました。その中から、当事者に人気のレプリカ体験、バックヤードツアー、衣装体験をご紹介しますとともに、過去の失敗談についてもお話しします。

第3回 10月4日(金)

来館者に寄り添う、鑑賞の「処方箋」



前野 耕一
Koichi MAENO

鹿児島県/鹿児島市立美術館、美術館主幹兼学芸係長

美術館をもっと身近な場所と感じてもらうために、来館者の鑑賞にまつわる困りごとへの解決法を処方箋(作品を味わうための仕掛け)として提案した、小企画展「美術館を楽しむ鑑賞の処方箋」の取り組みをお話しします。

第5回 10月18日(金)

博物館と地域が 手をつないだ 「小さな子どものための」活動



秀瀬 みのり
Minori HIDESE

大阪府/高槻市立自然博物館(あくあひあ芥川)、主任学芸員

館の主催事業として乳幼児を対象としたイベントを、地域の子どもに関わる団体と連携して実施しています。「地域の子育て」に視点を置いた教育普及活動について、試行錯誤してきた経緯と現在地についてお話しします。

第2回 9月27日(金)

「Well-being」に資する天文解説



宮本 孝志
Takashi MIYAMOTO

熊本県/南阿蘇ルナ天文台、台長

人類は生まれてから数百万年、うれしい時、悲しい時にいつも星空を見上げてきました。なぜ星空を見上げ、その下で暮らすことが人々のウェルビーイングにつながるのか、「天文台浴」の提唱と検証のお話しです。

第4回 10月11日(金)

学芸員の学びから考える 介護施設のレクリエーション



手嶋 翔一
Shoichi TESHIMA

福岡県/介護老人保健施設 松寿苑、介護士

博物館で実施されるワークショップと介護施設で行うレクリエーションの類似点や相違点に触れながら、認知症患者様への対応における留意事項やプログラムの提供方法についてお話しします。

第6回 10月25日(金)

大学博物館は、学生の「保健室」



梅村 綾子
Ayako UMEMURA

愛知県/東海国立大学機構 名古屋大学博物館、特任助教

学校保健法で必置とされる保健室を、大学生は「心の支え」「学校の母」「逃げ場」と定義しました。しかし、大学にもう一つの保健室があります。学生に寄り添い、チャレンジする大学博物館の取り組みをお話しします。

【参加にあたっての注意事項】

- 参加にはWi-Fiなどの安定した通信環境と、インターネットに接続したパソコンやタブレット、スマートフォンが必要になります。
- 円滑な参加のために、事前に「ミーティング用Zoomクライアント」をインストールしておくことをお勧めします。インストールはこちらをご参照ください。
https://zoom.us/download#client_4meeting
- ZoomのURLの転送、視聴中の録画や録音は固く禁じます。

メール申込は
こちら



申込方法	受講希望の方は、① 件名:連続講座(人材育成) ② 内容:氏名(ふりがな)、所属、職名、この連続講座に期待することを書いて、E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp へ、お申込みください。なお、申込締切は9月13日(金)とします。また、単発参加希望の場合はお問い合わせください。		
参加対象	博物館・図書館・公民館/医療・福祉従事者、大学教員、学芸員有資格者で「リンクワーカー」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等		
開催方法	Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング	定員 >>> 各回 30 名	受講料 >>> 無料
問合せ先	中込 潤 (実行委員会事務局、九州産業大学美術館学芸室長) E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp		
事業責任者	緒方 泉 (九州産業大学地域共創学部特任教授)	 九州産業大学美術館 Museum of Kyushu Sangyo University	〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1 tel 092-673-5160 / fax 092-673-5757 ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp https://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/
主催	主催:「児童生徒の不登校」「若者のひきこもり」課題解決に向けた社会資源を活用した「メンタルヘルス」支援プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業 実行委員会(代表<九州産業大学美術館>、九州大学総合研究博物館、九州国立博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、直方谷尾美術館、下関市立考古博物館)		